

一般社団法人日本カートラベル推進協会 代表プロフィール

会長 田嶋 伸博（たじま のぶひろ）

1950年6月28日生
石川県出身／東京都在住

株式会社タジマモーターコーポレーション
代表取締役会長兼社長/CEO
株式会社タジマEV 代表取締役会長兼社長/CEO
一般社団法人 電気自動車普及協会(APEV) 代表理事
浮揚式津波洪水対策用シェルター普及協議会(APTS) 代表幹事
QW 航空機産業化推進協議会(QW-AIPA) 会長
IGIF (International Green Island Forum) Director
中国日照市経済技術開発区 経済顧問
静岡県EVシフト・自動運転化等研究会 委員
磐田新産業創出協議会 理事
袋井市産学連携事業推進委員
袋井市商工会議所 議員
北海道森町 観光大使
小山町 行政アドバイザー
JEVRA 日本電気自動車レース協会 理事
JAF 公認 チームモンスター 会長



【事業経営 略歴】

1978年、それまでのモータースポーツ活動の経験・実績を活かし、より多くのモータースポーツ愛好家の手助けができればとの願いから、モンスターインターナショナルを創業。1983年には法人化し、2005年11月には、株式会社タジマモーターコーポレーションへ改組および社名変更し現在に至る。

1986年5月に鈴木自動車工業株式会社（現 スズキ株式会社）と提携を結び、同社の四輪モータースポーツを担当する株式会社スズキスポーツ（後の株式会社アイアールディー）を設立。競技車両および先行開発車両の研究・開発・製造を行うと共に、2002年には、FIA ジュニア世界ラリー選手権(JWRC)プロジェクトの監督に就任し世界進出への足掛かりを築いた。2007-2008年には、FIA 世界ラリー選手権(WRC)プロジェクトを推進し、組織作りを行うと共に各ラリーで陣頭指揮を執った。

自動車販売業にも積極的に取り組み、ポルシェ・ランボルギーニ・ブジョー・シトロエン等の輸入車正規ディーラーを展開。国産車では、スズキアリーナ店（東名横浜・小岩）も出店。ポルシェセンター奈良の11年連続ベストディーラー賞受賞を筆頭に、それぞれで優秀な販売成績を収めている。また、グラスルーツであるモータースポーツプロショップおよびタジマの販売拠点を北海道から九州まで全国展開している。

2009年、長年にわたりモータースポーツの世界で培った経験と実績を基に、次世代エネルギーとモータリゼーションの研究開発部門を設立。電気自動車の開発や既存ガソリン自動車の電動

化（EV コンバージョン）業務を拡大している。2010 年には、デザイン・設計・製造を全て自社内で行うマイクロ EV スポーツカー「E-RUNNER ミニスポーツ」を、2013 年には「超小型モビリティ プラットフォーム」を発表した。あくまでもベンチャー企業としての自由な発想や小回りの利く体制で新時代のモータリゼーションを模索している。

また「電気自動車普及協議会（APEV）（現 一般社団法人 電気自動車普及協会）」の発足にも関わり、代表理事として国内外で多くの講演を行い、電気自動車の普及による持続可能な地球環境の構築を訴える活動を推進している。2012 年には「TEDxSeeds」に出演し、講演が世界に配信された。

2013 年、電気自動車への取り組みとモータースポーツで培った技術が評価され「株式会社 SIM-Drive」の代表取締役社長に就任。

2011 年の東日本大震災の惨状に衝撃を受け「命と財産を守るプロジェクト」を始動。モータースポーツで培った技術で「浮揚式津波洪水対策用シェルター セーフプラス」を開発し、2013 年から販売を開始。普段使いできる利便性と避難困難者に寄り添ったコンセプトにより、普及させることを本気で考えた世界で初めての津波シェルターとして高く評価され、全国への配置が進んでいる。

2017 年、防災・減災の観点から、あらためてキャンピングカーの利便性に着目。津波シェルター製造で培った技術を活かしてオリジナルキャンピングカー「タジマキャンパー」3 機種を開発し販売を開始。

2018 年、「株式会社タジマ EV」を設立し代表に就任。50 年におよぶモータースポーツならびにモータリゼーションに関わる取り組みで得た英知をハブに、EV 分野のエキスパートおよび最先端企業の力を集結し、新しい EV つくりだけでなく"EV 社会"の可能性を追求した Mobility Life Design 事業の開発を推進している。

【モータースポーツ 略歴】

「モンスター」と異名をとり、日本はもとよりアジアを代表するドライバーとして、アメリカ、ヨーロッパでもその名を広く知られる。国内ダートトライアル選手権、環太平洋地域の国際ラリー、国際ヒルクライムと、主に 3 つのカテゴリーに参戦。今なお現役、アジアのラリー界を代表する選手として第一線で活躍する。

18 歳でレースデビュー。ダートトライアルにおいて、1 トライ目転倒リタイヤ、2 トライ目逆転優勝という衝撃的なデビューを果たした。

国内ラリー、ダートトライアルで活躍する傍ら 1970 年代より日本人選手の草分けとして、海外での国際ラリーにも精力的に参戦。1979 年サザンクロスラリー（オーストラリア）では、アジアベストドライバーの表彰を受けた。1982 年・1985 年には SCCA プロラリー（アメリカ）で活躍した。

「モンスター」というニックネームは、サザンクロスラリー参戦時の走りに由来する。現地ジャーナリストが「日本からモンスタードライバーがやってきた！」と書き立て、これが後にニックネームとして定着した。

全日本ダートトライアル選手権においては、1991年～1996年までの7年連続、1999年・2000年の2年連続と、合わせて9回ものチャンピオン獲得を成し遂げた。

海外ラリーへも精力的に参戦し、FIA アジアパシフィックラリー選手権(APRC)では1995年～1998年の4年連続を含み、二輪駆動部門チャンピオンを5回獲得している。また、非常にタフなラリーで知られる香港北京ラリーにおいて二輪駆動部門で何度も優勝を重ねた。

国際ヒルクライムでは、1988年から継続してパイクスピーク・ヒルクライム（アメリカ）に参戦し、1995年には日本人初の総合優勝という快挙を達成。そして2007年には、同大会において13年間破られることのなかったコースレコードを破りワールドレコードを樹立。さらに2011年にも自らの記録を破り「10分の壁」を超える新たなワールドレコードを樹立する偉業を成し遂げた。なお、同大会においては2006年から2011年まで6連覇を達成している。また、過去ニュージーランドで開催されていたレース トゥザスカイでは、8回もの総合優勝を獲得。両大会で「キングオブザマウンテン」の称号を得ている。2012年には、パイクスピーク・ヒルクライム7連覇に、オリジナルEVレーシングカー「E-RUNNER パイクスピークスペシャル」で挑戦を果たし、モータースポーツ界に衝撃を与えた。

後進育成にも積極的に取り組み、JAF全日本ダートトライアル選手権/JAF関東ダートトライアル選手権やスズキワンメイクレースシリーズの主催を行い、モータースポーツの発展とドライビングテクニックの向上に尽力。さらに、安全運転のために必要な技術力向上を目指すセフティードライビングフォーラムも全国で開催し好評を得た。著書に「ダート攻略テクニック」があり、ダートドライバーのバイブルとなっている。

2002年、スズキJWRCプロジェクトの監督に就任。FIA世界ジュニアラリー選手権への参戦を開始し、2004年、2007年、2010年の3回、シリーズチャンピオン獲得へ導いた。

2013 パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム（米）へ、オリジナルEVレーシングカー「E-RUNNER Pikes Peak Special」で参戦し、エレクトリックDiv.優勝。電気自動車として初めて10分の壁を破り（9m46s530）クラスレコードを更新した。

2016年 パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムにおいて長年にわたり同大会の発展に寄与したことから、100周年記念大会において殿堂入りを果たした。アメリカ人以外の殿堂入りは史上初の快挙。